

## 発達段階に応じた「思いやり」を育む道徳授業の創造

－ 11年間のつながりを意識した道徳教育のあり方を探る －

### 1. 今までの取り組みの整理の視点

「道徳」領域では、豊かな社会生活を創造するためには、「帰属意識を高める」「人とのかかわりを豊かにする」「他のために行動をおこす」ということを、自分のことと結びつけて考えさせる経験を幼児期から積み重ねていくことが大切であるととらえた。そこで、平成19年度より11年間の子どもの発達を視座におき、幼稚園の遊びや生活の中に、意図的、計画的に道徳性の芽生えが培える場面をとらえ指導を行ったり、小・中学校の道徳の時間を活性化するための具体的な手立てについて考察していったりした。

平成19年度は、「豊かな『社会生活』を創造する」子どもの姿を、「追求して学ぶ姿」、「思いやりのある姿」、「集団の一員としての姿」の3点から整理していった。「道徳」領域では、「思いやりのある姿」というカテゴリーを、道徳教育の実践からどのように追求していけばよいのか、という視点から道徳の授業を構築していこうと考えた。

ところで、平成20年3月に新学習指導要領が公示された。新学習指導要領解説の中に道徳教育の改善についての基本的な観点として「道徳教育はすべての学校段階において一貫して取り組むべきものであり、幼稚園、小・中・高等学校の学校段階や小学校の低・中・高学年の各学年段階ごとにその重点を明確にし、より効果的な指導が行われるようにする必要がある。」とある。さらに、「基本的な生活習慣や人間としてしてはならないことなど社会生活を送る上で人間としてもつべき最低限の規範意識、自他の生命の尊重、自分への信頼感や自信などの自尊感情や他者への思いやりなどの道徳性を養うとともに、それらを基盤として、法やルールの意義やそれらを遵守することなどの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できる人間を育てることなどが重要な課題となっている。」とある。これらを踏まえて道徳教育が改訂された。このように改訂された新学習指導要領を踏まえて、全体計画を見直す必要が出てきた。そこで本年度は、思いやりの心の育成を中心に、全体計画のあり方を検討し、11年間のつながりを意識した道徳指導のあり方を検討することとした。そこで、各学校園にある道徳教育の全体計画を、思いやりの心の育成に視点をあてて整理することとした。しかし、道徳の内容の4つの視点は、相互に深い関連をもっている。したがって、4つの視点に含まれるすべての内容項目について指導を行うことで子どもの道徳性が効果的に養われることは言うまでもない。

### 2. 整理して見えてきた改善点

整理して検討すべき点として、次の3点が明らかになった。

- ・小・中学校の全体計画の様式を統一すること。  
全体計画を統一することで、本学校園のめざす子どもの姿から各学年におけるめざす子どもの姿が整理され、11年間のつながりが明確になる。
- ・幼稚園における道徳的視野の芽生えについて考察すること。  
初等部前期ブロックの道徳教育の重点目標を考えるにあたり、小学校低学年の道徳的価値16項目とどうつながっているのかを探る必要がある。
- ・各学年の重点目標を見直し、各ブロックの重点目標を設定すること。  
思いやりの心の育成を中心とした目標になっているか見直す必要がある。そこから、各教育研究ブロックの目標を整理する必要がある。

### 3 整理した11年間の取り組み

#### 【初等部前期】

家族以外の集団である幼稚園での生活、小学校での生活を初めて体験するこの段階の子どもたちにとって、基本的な生活習慣を身につけることは、とても大切なことである。この時期に身につけた基本的な

生活習慣は生涯にわたってあらゆる行為の基盤となり、物事に対する意欲やかかわりを支える上で欠くことのできないものとなる。

基本的な生活習慣を身につけることは、思いやりの心を育てるためにすべてのブロックでの土台であると考えられる。自分のことが自分でできるという土台があってこそ、他者への思いやりの心も育まれると考えるからである。その中でも特にこの初等部前期という段階において、「健康や安全に気をつけ、規則正しい生活習慣を身につけること」に重点をおくことによって、次の段階で、自分の生活を見直し、よりよくしようとする主体性のある自己形成へとつながる。また、この時期に、身近な人とかかわる中で、助けを借りながら健康や安全に気をつけていくことで、安心感も生まれ、安定した集団生活を送ることができるであろう。安心感の中で少しずつ身近な人と仲良く助け合い、約束やきまりを守ることができるようにすることで思いやりの心が芽生え、育っていくと考える。

#### 【初等部後期】

この段階の子どもたちは、集団生活にも慣れ、人とかかわりが深くなっていく。相手の気持ちをより深く理解できるようになるため、温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。相手の状況や困っていること、大変な思いをしていることなどを思いめぐらせることによって、相手の立場に立って考えることができるように指導していくことが大切である。また、この段階においては、気の合う友達どうして仲間をつくって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向がある。集団での活動などがこれまでになく盛んになる時期であるが、自分の利害に基づく衝突も多く見られる。このような特性から、この段階においては、健康的な仲間集団を積極的に育成していくことが大切であり、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことを中心として指導する必要がある。

附属学校園では、この時期から宿泊研修が始まる。学級から学年の仲間に集団が広がることで、より豊かなかかわりが生まれ、助け合いや協力の心が育つと考える。友だちの立場を理解したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることを大切にし、学級や学年の友だちと生活を共にすることで育った相手の立場を思いやる心は、身近な集団への積極的な参加を促し、主体的に責任を果たす基盤となるであろう。さらに、相手の立場を思いやる心が育てば、他者の思いやりに触れる機会もしばしばあるであろう。そして、次の段階の心の高まりにつながるであろう。

#### 【中等部】

心身ともに発達著しく、思春期に入ったこの段階の子どもたちは、活力にあふれ意欲的に活動する。それゆえ、身に付いていた規則正しい生活習慣が乱されることがある。さらに、そこから心の健康を害し、健康を損なったりすることが見られる。気力と活力に満ちあふれた生活を過ごすためにも、身に付いていた規則正しい生活習慣を維持させることが重要である。そして、心身の調和のある生活ができることが基盤となり道徳性が養われていくであろう。

この段階の子どもたちは、身近な集団とかかわりからさらに大きな集団とかかわりへと広がる。児童会や生徒会による自治的な活動が盛んになったり、学校行事を子どもたちが企画し、準備から運営まで行う機会があったりして学校集団とかかわりの中で生活している実感が深まる。また、総合的な学習の時間で地域の方々とふれあいながら学習を進め、地域社会とかかわりの中で生活している実感も深まる。このように生活の実感を通して子どもたちは相手の立場を思いやりながら、自分の役割と責任を自覚して、自分の仕事を成し遂げる経験を積み重ねていく。そして、自分が集団に対して貢献している喜びを得、自らの充実感として体得していく。しかし、そこには、多くの人の協力に支えられて成し遂げることができたことを忘れてはならない。したがって、そのような他者の思いやりに互いに触れていることを気づかせるよう指導する必要がある。多くの人の善意や支えに気づくことで、子どもたちは感謝の念を抱き、主体的な奉仕の心へ発展していくと考える。そして、本学校園がめざす子ども像へ迫っていくであろう。

以上のように各ブロックごとに思いやりの心の育成を中心に重点目標を見直した結果、それぞれのブロックで重点にすべき点が見えてきた。

以下に思いやりの心の育成を中心とした、11年間の道徳教育のあり方を表にまとめた。

(文責 福島 章洋)

「思いやり」を中心とした11年間の道徳教育のあり方

	初等部前期 (幼稚園～小学2年生)	初等部後期 (小学3年～5年生)	中等部 小学6年生   中学1～3年生	
	育てたい心	身近な人と	いろいろな相手と	身近な集団で
		助け合う心・協力	主体的な奉仕の心	
	基本的な生活習慣			
重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 健康や安全に気をつけ、規則正しい生活習慣を身につける。</li> <li>○ 身近な人に親しみを持ち、仲良く助け合うことができる。</li> <li>○ 約束やきまりを守ったり、みんなが使うものを大切にしたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の生活をよりよくしようとする態度を養う。</li> <li>◎ 相手の立場を考えて思いやる心を養う。</li> <li>○ 身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 望ましい生活習慣を身につけ、自主的、自律的に行動することができる。</li> <li>○ 温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し、思いやりの心をもつことができる。</li> <li>◎ 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会生活の向上、発展に貢献することができる。</li> </ul>	

附属学校園における道徳教育

<p>日本国憲法 教育関係諸法規 ・教育基本法 ・学校教育法 ・その他 学習指導要領（目標）</p>	<p>1. 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培う 2. 豊かな心をはぐくむ 3. 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図る人間を育成する 4. 公共の精神を尊び、民主的な社会及び国家の発展に努める人間を育成する 5. 他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する人間を育成する 6. 未来を拓く主体性のある日本人を育成する 7. その基盤としての道徳性を養う</p>
--	--

<p>時代や社会の要請</p>	<p>自発性や創造性を持ち、より良き地域社会の創造に向けて主体的に参画できる人間の育成に努める</p>
-----------------	---

<p>めざす子ども像</p>	<p>1 新しい時代を切り拓き、社会に貢献しようとする子ども 確かな知識を基盤とした優れた判断力・行動力を持ち、協働して豊かな社会の実現に果敢に挑戦しようとする</p> <p>2 豊かな感性を育み、創造的に探求し続ける子ども 人や事象の持つさまざまな価値や本質をイメージ豊かにとらえ、知的好奇心を持って学び、探求し続けていこうとする</p> <p>3 人とのかわわりを大切に、共に伸びていく子ども 自他のよさと可能性を尊重し、支え励まし合いながら、よりよい人間関係と自己の伸長を図っていこうとする</p>
----------------	--

<p>道徳教育の重点目標</p>	<p>1 きままりある生活を通して自らの生き方を正し、節度を守り節制に心掛け調和のある生活の実現に努める</p> <p>2 多様な価値観を持ち、自分や相手の立場を理解し、思いやりの心をもつて、進んで行動できる</p> <p>3 勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会生活の発展・向上に貢献することができる</p>
------------------	--

<p>各ブロックの重点目標</p>	<p>◎健康や安全に気をつけ、規則正しい生活習慣を身につける ○身近な人に親しみをもち、仲良く助け合うことができる ○約束やきまりを守ったり、みんな使う物を大切にしたりすることができる</p> <p>◎自分の生活をよりよくしようとする態度を養う ◎相手の立場を考えて思いやりの心を養う ○身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たすことができる</p> <p>◎望ましい生活習慣を身につけ、自主的、自律的に行動することができる ◎温かい人間関係の精神を深め、他の人々に対し、思いやりの心をもつことができる ◎勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会生活の向上、発展に貢献することができる</p>
<p>初等部前期</p>	
<p>初等部後期</p>	
<p>中等部</p>	

<p>&lt;地域や学校の実態・特殊性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小中一貫校</li> <li>・小学校進学期には半数以上が附幼出身者で、他は少数</li> <li>・中学校進学期には半数が附小出身者で、半数が他</li> <li>・広い校区、多様な地域出身者のため連帯感が希薄</li> <li>・ほぼ全員が普通高校進学希望</li> <li>・経済的に恵まれた家庭が多い</li> <li>・保護者は専門的職業や事務従事者が多い</li> <li>・住宅地・商業地に隣接した市街地内にある</li> </ul>
---

<p>&lt;子どもの実態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知性に優れており、多角的な見方・考え方ができる</li> <li>・自分なりの考えを堂々と主張できる</li> <li>・一人ひとりが個性を伸ばし、互いにそれを認めようとする雰囲気がある</li> <li>・友達思いで、明るく、素直である</li> <li>・基本的な生活習慣や、公德心、自主性や自律性が十分身につけてはいない</li> <li>・勤労を軽視し、人のために奉仕する気持ちに欠ける</li> <li>・自己中心的な傾向があり、連帯感や協調性に欠ける</li> <li>・自己存在感が低い</li> </ul>
---

<p>&lt;保護者の願い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりや感謝の心をもった子ども</li> <li>・礼儀正しく、年長者を敬う子ども</li> <li>・自分に責任をもち忍耐強く、よく努力する子ども</li> <li>・自分の言動に責任をもつ子ども</li> </ul> <p>&lt;教師の願い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で自己を表現でき、主体的、自律的に生きることができると子ども</li> <li>・感謝や勤労・奉仕の気持ちをもち、豊かな社会生活を創出する子ども</li> <li>・豊かな心と寛容の心をもち、謙虚に学ぶ子ども</li> <li>・自己存在感が高く、開かれた個として他と関わることができる子ども</li> </ul>
--